第3学年3組　図画工作科学習指導案（図画工作科室）

1　題材名　つくって、すって、ゆめプリント！

2　本時の学習指導

（1）目標

　○版のインクのつけ方、写し方、構成などを試しながら、工夫して表す。

（創造的な技能）

（2）準備

　○教師　白ボール紙、片面段ボール、紙（1人2枚分）、版画用具一式（インク6色）、新聞紙、乾燥棚、ばれん

　○児童　ボンド、はさみ、よごれてもよい服装、身近な材料（自分で工夫して形を変えられるもの）

（3）展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学習活動、予想される児童の具体的な姿（「」） | 指導の工夫  （〔共〕：〔共通事項〕に係る内容） | 評価と手だて、評価基準、【評価方法等】 | 時間 |
| 1　前時の活動を振り返り、本時の活動の見通しをもつ。  提案　自分のあらわしたいものに合わせて、インクのつけ方や、するいちを工ふうしよう。  2　自分の考えに合わせて、版を作る。  ・「どんなお話が浮かぶかな。」  ↑行き戻り↓  3　自分の考えに合わせて、色を選んだり位置を考えたりして刷る。  ・「上手く模様が出なかったな。」  ・「違う色にすればよかったな。」  4　本時のまとめをする。  5　後片付けを行う。  ・作品を乾燥棚に入れる。  ・版は新聞にはさみ、袋に入れる。  ・ローラーを洗う。  ・床や机の上の清掃を行う。 | ○本時では、図画工作室内を、版をつくるコーナーと刷るコーナーに分けて活動することを伝える。  ○工夫できることはどんなことがあるかを児童に問いかけ、想像ができるようにする  ○教師が版の向きを変えてみることで、イメージを広げられるようにする。  ○刷った作品を示すことで、模様の出方のイメージが湧くようにする。  ○版が小さく、上手く刷れない児童の気持ちを受け止め、もう一度やり直す意欲がもてるようにする。  ○2回目に違う色で刷ると、1度目のようにはきれいに色が出ないことをあらかじめ伝えておく。  ○材料の特徴を生かし表現している姿を認めることで、他の児童も材料の使いかたを工夫できるようにする。  ○児童の作品を紹介し、活動を振り返ることが出来るようにする。  ○役割分担をし、片付けが出来るよう声を掛ける。 | 創　表したいことに合わせて、インクの色や版の位置などを工夫して刷っている。  【行動観察・対話・表現】  [努力を要する状況と評価した児童への手立て]  お話が思い浮かばない児童へは、「この形何に見える？」と問いかけることで、考えられるようにする。 | 15  55  20 |

3　備考

（1）在籍児童数　35名

（2）環境構成図

版をつくるコーナー

刷るコーナー